

（株）生田組より車椅子が寄贈されました

3月9日に車椅子2台の寄贈式が町長室で行われました。
寄贈式では、（株）生田組 代表取締役 生田政嗣様より町長へ目録が贈呈されました。町長は、「町の地域福祉向上のために、高齢者福祉施設などで活用させていただきます。」と感謝の言葉を述べました。



第53回 ぶくあん 棕庵文学賞

「第53回棕庵文学賞」「第64回県出版文化賞」「第39回寺田虎彦記念賞」の合同授賞式が2月22日、高知会館で行われ、谷本好美さん（四万十町昭和）の小説「忘却曲線」に棕庵文学賞が贈られました。授賞式では三賞代表して谷本さんがあいさつし、受賞の感謝と今後も書き続ける決意を述べました。

「忘却曲線」は同人誌「風土第19号」に掲載された小説で、十和の小さな四手崎集落の三人の老女の軽妙な暮らし合いを明るくコミカルに描かれた作品です。前作の「棕櫚の木のそばで」（「風土」第18号所収）と合わせて読めば面白さ倍増です。この受賞作は「第一書齋（トイレ）」で書かれたものですが、「第二書齋（予土線の車窓）」で書いた高知新聞・コラム「閑人調」の連載寄稿も面白いです。機会があればぜひご覧ください。
谷本さん、受賞おめでとうございます。

四万十町ポッチャ大会

2月26日、四万十町で初めての「四万十町ポッチャ大会」が開催され、障害のある人たちなど26人が参加し、パラスポーツの人気種目であるポッチャ競技を楽しみました。
この大会は、NPO法人くぼかわスポーツクラブがスポーツ庁の事業を導入した、高知県障害者スポーツ推進プロジェクトとして、地域の障害者福祉施設の入所者をターゲットとした取り組みを中心としたモデルづくりの一環として、体験教室に引き続き、その成果を発表したものです。



第8回 くぼかわスポーツクラブ杯 スカッシュバレーボール大会

1月25日、四万十町窪川B&G海洋センターで、第8回くぼかわスポーツクラブ杯スカッシュバレーボール大会を開催されました。
四万十町内から8チーム（27人）の参加者が集まり、2ブロックの予選リーグ・決勝リーグを行い、予選から白熱した試合が繰り広げられていました。
どの選手も真剣にボールをつないでいき、最後は女性も男性も関係なくアタックを打ってレベルの高さを感じました。
今大会は「にゃ〜」チームが優勝を飾り、今年度のNPO法人くぼかわスポーツクラブ杯スカッシュバレーボール大会は無事全て終了しましたが、四万十町のスカッシュ大会は、来年度も夏・秋・冬と開催する予定です。
選手の皆さまお疲れさまでした。



▲優勝 にゃ〜

■上位3チームの結果

優勝	にゃ〜
準優勝	CATS
第3位	HスマイルB

季節の風景 4月

菜種梅雨



菜の花の咲く三月下旬から

四月上旬にかけて、連日降りつづく寒々とした小雨。「春の長雨」とも言います。高気圧がはり出したり移動性高気圧が北に偏って日本列島を通過するため、関東地方や太平洋沿岸部には冷たく湿った北東風が吹き、前線が停滞しやすくなります。そこへ小低気圧が次々と発生するため、すっきりしない天気が続くことになりやすい。

菜の花をはじめ、いろいろな花を催すという意味で、「催花雨」という別名もあります。また、同じ発音の「菜花雨」から「菜種梅雨」になったという説もあるそうです。

春から夏にかけては、植物にとって成長を促す大切な雨が降ることから、この時期の雨に植物の名前が付いているものが多いようです。菜種梅雨の季節が終わり、五月初旬は「たけのこ梅雨」、そして、五月中旬からは「卯の花くたし」。その後、梅の実の熟す頃、本格的な「梅雨」がやってきます。
雨で季節の移り変わりを感じてみるのも風情があっていいですね。

くらしの灯いきいき点す菜種梅雨 鈴木真砂女

今月の

わからないうま物事を進めない。



宗崎 名帆子さん (本町)

昨年より、四万十町観光協会の新しいスタッフとして活動されている宗崎さん。早くも「なくてはならない存在」です。

宗崎さんは東文の黒石出身で、窪川中学校、窪川高校と進学。「実は、窪中3年の時には須崎工業高校の造船科に行こうと思ってました。船に乗って、船の修理をしながら海外に行けるって聞いてたので。でも私、汽車通学に耐えられないだろうと思って諦めました(笑)」

高校を卒業した後、役場の臨時職員や携帯電話会社勤務を経て、20歳の時に高知市内にある各携帯電話会社を扱う総合代理販売会社に入社。そこで約10年間、携帯電話の販売・接客の仕事をしていました。

そして30歳になるのを機に帰郷。トマト栽培の会社でトマトの誘引作業に従事した後、役場の臨時職員をしていましたが、昨年、観光協会の前任者が退職することになり、宗崎さんに白羽の矢が立てられました。

宗崎さんを知る人が言います。「彼女の感心などところのつは、わからないまま物事を進めないというところ。実に真つ当なことなんです。これができる人が少ないんです。観光協会の仕事も、ただ引き継ぐだけではなく、ちゃんと「そもそも」を知ろうとする宗崎さん。「四万十町の観光はどうあるべきか?」「何が、どこが観光資源なのか?」などなど、きちんと知ってきちんと動くというのをモットーにしているようです。「窪川出身なので、窪川のことはそこそこわかるんですけど、大正、十和のことについてはそれほどじゃないので、どんとん外に出て、しっかり学んでいきたいです」

それともう一つ。コミュニケーション能力が優れているということ。ご本人によれば、もともと人と話すのが好きなのと、10年間接客の仕事をしてきたということも大きいのではないかと考えています。

とつても頼りになる宗崎さん。きっと、魅力ある四万十町の観光を創造してくれることと思います。